

2019・平成31年センター漢文解説(本試験) 準拠『早覚え速答法』

※m4は『早覚え』マニュアルの4ページ、176は『早覚え』の176ページ、40.3は問題文40ページ3行目を示す。

【出典】『杜詩詳註(とししょうちゅう)』

唐の詩人杜甫(とほ)の詩文を清の仇兆鰲(きゅうちやうこう)が解説した書物。

【書き下し文】※音読のためルビと送りがなの歴史的かなづかいは今のかなづかいに変更。

嗚呼(ああ)哀(かな)しいかな。兄の子有り甫(ほと)と云(いう)、服を斯(こ)に制し、徳を斯に紀(しる)し、石に斯に刻む。

或(あるひと)曰(いわ)く、「豈(あ)に孝童の猶子(ゆうし)なるか、奚(なん)ぞ孝義の勤むること此(か)くのごとき」と。甫泣きて対(こた)えて曰く、「敢(あ)えて是れに当たるに非ざるなり、亦また報(むく)ゆるを為すなり。甫(ほ)昔(むかし)病(やま)いに我が諸姑(しよこ)に臥(ふ)し、姑(こ)の子又(また)病む。女巫(じよふ)に問えば、巫(ふ)曰(いわ)く、『楹(はしら)の東南隅に処(お)る者は吉なり』と。姑遂(つい)に子の地を易(か)へ、以(も)つて我を安(やす)んず。吾是(こ)れを用(も)つて存し、而(し)こうして姑の子卒(しゅつ)す。後に乃(すなわ)ち之(こ)れを走使(し)より知る。甫(ほ)嘗(かつ)て人に説くこと有り、客(きゃく)将(まさ)に涕(なみだ)を出(い)ださんとし、感ずる者(こと)之(こ)れを久(ひ)きしくし、相(あい)与(とも)に諡(おくりな)を定め『義』と曰(い)う。」と。

君子(くんし)以為(おも)えらく魯の義姑なる者は、暴客に郊に遇(あ)い、其(その)の携(たず)さえる所を抱(いだ)き、其の抱(いだ)く所を棄て、以(も)つて私愛を割(た)つと。梟君(けんくん)焉(これ)有り。

是(こ)を以(も)つて茲(こ)の一隅を挙げ、彼(か)の百行を昭(あ)きらかにす。銘して韻せず、蓋(け)だし情至れば文無し。其(その)の詞(ことば)に曰(い)わく、

「嗚呼(ああ)、有唐(ゆうとう)の義姑、京兆(けいちやう)杜氏の墓」。

【現代語訳】○内は訳者の補訳。

なんと悲しいことか！

(叔母の)兄に(杜)甫という子がいた。(その者が)ここで(叔母の)喪に服し、(その)徳を記し、(その)生涯を墓石に刻む。

ある人が言った。

「孝童さんの甥ですよ。どうしてそこまで孝を尽くすのですか？(実の母でもないのに)」

杜甫は泣きながら答えた。

「(孝行だと褒められるなんて)とんでもない。ただ(叔母の恩に)報いているだけです。」

かつて私は叔母の所で病気になり、叔母の子も同じように病気になりました。女祈祷師にたずねると、『柱の東南がわにいと運氣が良くなります。』と言われました。そこで叔母は自分の子の場所を(ほかに)移し私をそこに寝かせました。このため私は助かりましたが、叔母の子は亡くなりました。このことは後になってはじめて使用人から知りました。(この話を)私が人に説明したところ、その人は泣きそうになり、しばし感無量。そして二人で(話し合い)故人への贈り名を『義』に決めたのです。」

(かつて魯の義姑という女性は、魯に攻め込んできた斉の軍隊に遭遇した時、抱いていた自分の子を捨て、手を引いていた兄の子を抱きしめた。彼女は捕らえられ、斉の將軍にその理由を問われた。彼女が「自分の子は『私愛』ですが、兄の子は『公義』です。義を失ってはこの国で生きていけません。」と答えた。將軍は斉の君主に「国境の婦人でさえ義を重んずるので魯国への侵攻は中止すべきです」と進言し、斉君はそれを認めた。戦いは回避され、魯国の君主は義姑に褒美を与えた。)

(ここに眠る)女性も同じである。

そこで(叔母がわが子より私を助けた)この一例だけを取り上げて、彼女のあ

らゆる徳行の証(あか)しとする。哀悼の辞に飾りはない。感極まりその余裕もないのかもしれない。

墓誌は次のとおり。

「ああ、唐の義姑、都の杜氏の墓」。

※訳注

豈く与もしかしてゝか？ 訳は問題文注4の意識に従った。受験レベルではないので学習不要。

亦(また)き。ただうだけ。受験レベルではないので学習不要。

之(これ)を久(ひさ)しくし(40.6)し(ば)らく

君子以為(き)く(以)割私愛(き)く。『列女伝』によって意識した。「君子」は訳中の斉の將軍、斉の君主、魯の君主および『列女伝』の著者劉向を指し、「以為(おも)え(ら)く(と)考(え)た」は、義姑の行為が彼らに評価されたことを示す。

文―文飾。修飾された表現。

一隅を挙げ―一例を挙げて全般を類推させること。「一隅を挙げ、三隅をもつて反(かえ)さざれば、復(また)せざるなり。…一例を示した時に、三つの事例や疑問をこちらに返さなければ、(そのような者に教えを)くりかえさない。」『論語・述而』による。

茲(こ)の・彼(か)の―次のような対比になっている。

茲(こ)の一隅を挙げ

彼(か)の百行を(略)かにす

【解説】

筆者の主張をつかむ¹¹⁴

ステップ1―最初の2行を読む

最初の2行の前に、説明文があり、原文にも注がついているので、

よって説明文と原文を読むと、

説明文…杜甫が叔母の死を悼(む)：杜甫は：叔母に育ててもらった(た)

原文…嗚呼(ああ)哀(かな)しいかな。杜甫^{注1}(が)喪に服する^{注2}…墓誌を石に

刻む^{注3}。：「あの杜并(とへい)さんの甥ですね」^{注4}以下は傍線部な

ので読むのを停止。

ステップ2——最後の3行を読む

オシリから 読むとわかるよ お結論 目10

により、最後の2行から読んでいく。

是(ここ)を以(も)つて¹⁷⁵ || その(こ)の一隅を挙げ彼(女)のあらゆる行い^{注12}を昭(あきら)かにす。通常は修辞として韻を踏む銘文を作るが韻は踏まない^{注13}。蓋(けだし¹⁷⁶) || 思うに(情(じょう)至(いた)れば || 感情が極まるので)文無し。其(そ)の(|| 銘文の)詞(ことば)に曰(いわ)く

「ああ、唐^{注14}の義姑、長安^{注15}杜氏の墓」

ステップ3——最後の問7の選択肢を見る

三つのステップで共通する言葉を探すと、次のように「」内が同じだ。

ステップ1 「育ててもらった」

ステップ2 「情」 修辞 || 辞(ことば)を修飾する || ことばを(飾る)

ステップ3 問7

①心(情)

②感(情)

③(養育してくれた) (飾る)

ステップ2の「修辞」は

一字の漢字は熟語で訳せ、熟語の訳で正解探せ¹⁷⁴

により 修辞(辞を修める) ↓ 修飾 ↓ 飾る としたが、

二字熟語を他の言葉に言い換えて受験生の目をゴマカス¹⁷²

ことではないか？。しかも共通する言葉が多いのは③。これが正解候補か。

本文の結論は「杜甫が自分を育てた叔母の死を悼み、喪に服し、墓誌（＝墓石に刻む故人の一生を述べた文章）を石に刻むとき、通常は韻を踏む文を作るが、感情が極まるので韻を踏む文章は無し。」これで十分。これが大事。ここで

退却ルール³ 三分以内に主張をつかむ作業をやめて最初にもどる

問2〔漢〕〔疑？〕〔熟〕〔注〕

傍線部の直訳は次のとおり。

〔準備〕

- ・ 此^レ若^ニ||かくのごと(し)^ク||¹⁴⁴||このようだ
- ・ 奚^ニ||なんぞ||どうして
- ・ 若(ごと)き^{40.2}||連体形
- ・ なんぞ^ク連体形||疑問^ニ
- ・ 孝義^ニ||^ク孝行+正義・道義

〔原文〕

なんぞ孝義の勤むること かくのごとき か

〔直訳〕

どうして正義としての孝行に勤めることがこのようなのか？

←

どうしてこのように正義としての孝行に勤めるのか？

原文は反語ではなくて**疑問**なので、傍線部の正解は「孝行…している」①②

⑤。

叔母と杜甫の関係は次のとおり。

「杜甫は「孝童さんの甥」^{注4}

⊢原文は叔母の死を悼んだ文章 説明文

⊣このため原文^キは「(叔母の)兄の子有り杜甫^注」と曰(い)ふ」となる

一 ⊢⊣より

兄 孝童―子〓杜甫

妹 叔母

したがって「実の母でもない叔母」②が正解。なお、

①「杜甫は若い」は原文にない。

⑤「困窮した叔母」も原文にない。

読者からの質問に答えて

問…単純な疑問はない[⊗]と書いてあるのに、「なんぞ〜連体形」という単純な疑問が出題されている。どういうことだ！

答…「なんぞ〜かくのごとき」は「なんぞ〜ざる」[⊗]と同じく、単純な疑問ではありません。両者を並べると次のとおり。

何く若レ此 なんぞ〜かくのごとき どうしてそこまでするのか？(〓そこ
までする必要はないのに)

何不ニ〜 なんぞ〜ざる どうして〜しないのか？(〓すればよいのに)[⊗]
いずれも「これは漢文ですか？」といった単純な疑問ではありません。

問…「何く若此」を覚える必要はあるのか？

答…ありません。問題は最小の情報で解けます。理解だけすればけっこうです。

問1

(ア)対曰〓對曰〓對(こた)へて曰はく¹⁸²〓¹⁹³計十回登場↓対曰〓對(こた)へて

曰(い)はく↓③ ※対〓對(旧字)

問3(注)

説明・注で正解つかめ！-176

によって説明文と原文を読む。

叔母に孝行を尽くしている問2②

とんでもないことです40.3 説明文

亦(また)(叔母の恩に)報ゆるを為すなり40.3

しかしこれだけではわからない。アトマワシだ。

※この解説は、最少の時間で解くプロセスを再現しているので、このような説明になります。

問4〔注〕〔熟〕

注と熟語を使って読むだけ。

(杜)甫…病(やまい)に…臥(ふ)し40.3

姑(叔母)注5の子(も)又(また)病(や)む40.3

← 祈禱師注6の回答傍線部 40.4の結果

叔母は

(自分の)子の地(A)を易(か)え40.4

我(杜甫)を(そのAに)安んず(休ませた)40.4

※安非息↓休非息

← その結果

我…(生)存し ※生非存

(叔母)の子(は)卒(す)？ でも「生存」の反対だろう40.5

すると祈禱師の回答は

「Aにいるとく良くなります」という③しかない。

問5〔熟〕〔対比〕

傍線部「我是(こ)れを以て(生)存し」の「これ」は指示語だから直前を受ける。直前は「姑(叔母が)…地を易(か)え」。また、

1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！174

というルールは、

のが原則なので、

易↓「交_レ易」↓「交_レ替」↓替

易↓「変_レ易」↓「変_レ移」↓移 ※変易(へんえき)

だから、正解は次の二つ。

②叔母が…場所を替(か)えてくれたので

⑤叔母が…場所を移してくれたので

次に

対比に注意!¹¹²

により

②杜甫は(生存_ス)叔母の子は重病となった

⑤杜甫は(生存_ス)叔母の子は犠牲になった⇨死んだ

となり 生存_ス死亡 の⑤が正解。

出題される漢文にあいまいな論理はない。

読者からの質問に答えて

問…卒(しゅつ)す⇨死ぬ を重要漢字として覚える必要はないのか!

答…ありません。受験レベルの漢文は最低の情報で解けます。記憶量を増やすより、論理力を鍛えてください。

問1〔注〕〔漢〕

イ 二重傍線部を含む文は次のとおり。

原文…後に ┃ これを使用人^注より知る。

直訳…あとになって ┃ このことを使用人から知った。

したがって ┃┃┃ に入るのは

③ことごとく ④やっと ⑤くわしく

ここで重要漢字「乃(すなわ)ち」⇨⇨かえって、そこで

なので、③⑤の訳はあり得ず、④が正解。

なお、「乃(すなわ)ち」の前後は次のとおり。

叔母がわが子を犠牲にしてまで自分を救ってくれたことについて、

前はまったく知らなかった

(前ではなく)乃||かえって

後で本当の事を知った

選択肢③「ことごとく」と⑤「くわしく」は、右の意識「本当の事」から作ったヒツカケ選択肢だろう。文脈ではありうるが、翻訳としてはありえない。フイーリングに頼る者は落とされ、正確な訳にしがみつく者は合格する。

問6〔注〕

注と原文を読むと次のとおり。

魯義姑(は)自分の子を抱き 兄の子の手を引(く)注⁶

←攻めてきた…軍隊注¹⁰と遭遇し注⁶

携える…子を抱き 抱く所を捨てき¹¹※携が読めなくても平気だ

二

兄の子を抱き 自分の子を捨て 私愛を割(た)つち⁸

叔母注¹¹(も)焉(これ)有り^{40.8}

←

叔母||魯義姑

なお、叔母||義注¹⁰||唐義姑注¹¹ なので、

叔母||魯義姑||唐義姑

で間違いない。

したがって②「私情を断ち切って甥(兄の子^ち)…を救った」が正解。

問3〔注〕

アトマワシの作業再開。原文を最後まで読むと、

①叔母の「生前の事績を評価して与える呼び名」注¹⁰を「義」とし、

②魯義姑||唐義姑||叔母 であり、歴史に残るような義行をした女性として称賛しているので、傍線部は

実の母でもない叔母に…孝行を尽くしている問②

という誉め言葉に対する「恐れ多い気持ち」説明文であり、

亦また(叔母の恩に)報ゆるを為すなり

の内容は⑤「叔母に感謝し、その善意に応えている」しかない。

他の選択肢については、①「謙虚」②「他者に優しく」③「生前の叔母の世

話」④「叔父…も亡くしてしまい」は原文にないので、すべてキズ。

問7〔熟〕

正解は③でいいだろう。③の確認は次のとおり。

③徳の高かった叔母||(叔母の)徳を斯こゝに紀しるし40.1

③真心のこもった言葉||歴史上のヒロインの「魯義姑」きょと同じように叔母を「唐義姑」たうと呼んだ。

それぞれの選択肢のキズは次のとおり。

①思いのままに述べる||修辞注。||言葉を飾る

②毅然(きぜん)としていた叔母↑本文にない

④叔母…に…恩返しできなかった後悔↑本文にない

⑤長文になるので、蓋(けだ)し情至れば。||思うに、感情が極まるので

以上